

# ホノルル美術館蔵「もみちの賀」解題と翻刻

## ―リチャード・レイン旧蔵の横本『源氏物語』―

岡田 貴 憲

\*キーワード

『源氏物語』・紅葉賀巻・横本・レインコレクション・支子文庫本

### 一 書誌と特徴

本稿は、ホノルル美術館所蔵のリチャード・レインコレクションに収まる、『源氏物語』紅葉賀巻の新出伝本についての報告である。初めに当該伝本の書誌から記述する。

【所蔵先】ホノルル美術館 【所蔵品番号】GENJIS22 【外題】「もみちの賀」(表紙中央直書、本文同筆) 【内題】なし 【冊数】一冊 【寸法】縦16.5×横21.7cm 【装訂】列帖装 【表紙】薄茶色無地鳥の子紙 【料紙】楮紙 【丁数】四〇丁(遊紙前一丁、後一丁)、墨付三八丁 【本文行数】一面十一行(ただし墨付二四オウは十行。最終三八ウは七行) 【蔵書印】「河合氏蔵書」(墨付一オ右上、朱縦長方印。印主は不明) 【その他】後見返しに古書販売目録の断片を貼

付。内容は「鈴虫・空蟬・葵 室町末期写 横 三冊 三、〇〇〇」  
／巻末に以紹巴朱点句切校合之本一校了とあり、「ただし鉛筆で「横」字に右傍線を引き、その左、二行目下部に「同本也」と記すが、筆者不明。

当該伝本を収めるレインコレクションは、米国出身の浮世絵研究者であるリチャード・レイン(一九二六―二〇〇二)の旧蔵書であり、没後の二〇〇三年に、かつてレインが学芸員として勤めて以来の機縁で、現所蔵先により購入された。<sup>①</sup>約一万五千点とされるレインコレクションの全容については、科学研究費補助金の助成による調査が現在まで進行中であり、大半を占める近世の書物・絵画のうち一部は所蔵先ウェブサイトににおけるデジタル画像公開が行われつつあるが、他方、全体数に比してわずかながら中古文学の写本・板本が収蔵されることは、レイン自身の専門が異なることもあって従来知られていない。

当該伝本は中でも注目すべき古写本で、室町末期頃の書写と推定される『源氏物語』の一帖である。その最大の特徴は横本の書型であり、これが『源氏物語』写本として稀覯であることは、加藤昌嘉「作り物語のエレメント」<sup>④</sup>に、「作り物語写本の書型（本の大きさ・形）は、通常、六半本（枘型本）か四半本かのいずれかである。『源氏物語』の写本にあっては、横本は、ごく稀である」と指摘される通りである。

さらに注意したいのは、当該伝本の巻末に貼付された古書販売目録断片の記載内容である。これによれば、「以紹巴朱点句切校合之本一校了」との識語を持つ横本の鈴虫巻・空蟬巻・葵巻がある時期まで伝存しており、かつ鉛筆による「同本也」の注記を信ずれば、それは当該伝本の僚巻だったことになる。当該伝本が右の識語内容に該当するか否かについては後述するが、この断片および注記からは、当該伝本がかつて存在した一揃いの横本『源氏物語』の、零本である可能性を指摘できる。なお断片の元である古書販売目録については特定に至っておらず、そこに記載された三巻の行方も含め、引き続き精査を要する。

## 二 支子文庫本との関係

ところで、前掲加藤論が横本の『源氏物語』写本について「ごく稀」と述べた背景には、九州大学附属図書館が現在所蔵する横本『源氏物語』の存在がある。同論の注には現所蔵先の展示目録<sup>⑤</sup>への「紹巴本」としての掲載が言及されているが、この伝本はつとに九州大学国語国文学会有

志「故田村専一郎先生旧蔵「支子文庫」報告」<sup>⑥</sup>に次の通り報告された支子文庫本に該当する（「支子文庫」は旧蔵者である田村専一郎（一八八七～一九七五、元九州大学教養部教授）の文庫名）。

源氏物語 横（一五・五×二一・七糎）二九卷二九帖・零本。近世初期写。表紙は原裝。薄茶無地紙。綴帖。料紙は楮紙（匂宮は斐紙）。内容は、夕顔・末摘花・花の宴・賢木・須磨・明石・総合・松風・薄雲・少女・玉鬘・初音・胡蝶・螢・野分・御幸・真木柱・梅枝・若菜下・夕霧・御法・匂宮・橋姫・椎本・宿木・東屋・浮舟・竹河・柏木の各巻である。大部分同筆だが、花の宴・東屋などは別筆らしい。また「紹巴以本句切朱点一校了」（玉鬘巻末）などの識語がある。底本は肖柏本系統らしいが、それを大島本系統本で訂正したところが多い。朱による句読点は、紹巴本によったもの。田村氏の印記の外、「河合氏蔵書」印がある。

この支子文庫本は、田村の自筆蔵書目録（和書）<sup>⑦</sup>に、

源氏物語、二九、室町古写、（夕顔、末摘花、花宴、賢木、須磨、明石、総合、松風、薄雲、少女、玉鬘、初音、胡蝶、螢、野分、御幸、真木柱、梅枝、若菜下、柏木、夕霧、御法、匂宮、竹河、橋姫、椎本、宿木、東屋、浮舟）

と記載された伝本を、田村の没後に現所蔵先が寄託を受け、後に購入したものであり、現在は右報告に記載された巻序で「913\ケ1\1-1」～29」の請求記号を付与されている。また、国文学研究資料館では同伝本のマイクロフィルム（2005-1）・紙焼き写真（E6314）を所蔵しており、マイ

クロフィルムからのコンバート画像が新日本古典籍総合データベースで閲覧可能となっている (DOI:10.20730/100076564)。

今回報告するホノルル美術館蔵「もみちの賀」は、この支子文庫本と装訂が同一であり、巻頭に捺された「河合氏蔵書」の印も含めてほぼ同等の体裁を備える。支子文庫本の筆跡は「大部分同筆」とする右報告に反して多人数の寄合書とみられ、残念ながら「もみちの賀」と筆跡の一致する巻は含まれないものの、本行と別筆で施された書き入れについては同一人物の手によると認められる。加えて右報告でも触れられているように、支子文庫本のうち十七帖には巻によって若干異なる以下八種の識語が確認でき、このうち②は前述した古書販売目録断片の記載内容と一致している。そして、この断片記載の鈴虫巻・空蟬巻・葵巻と、本稿報告の紅葉賀巻は、いずれも支子文庫本の二十九巻と重複しない。

- ① 「紹巴以本句句切朱点／一校了」(11「玉かつら」・12「はつね」・13「こてふ」・15「野わき」・16「みゆき」・17「まきはしら」・18「むめか枝」)
- ② 「以紹巴朱点句句切校合之本一校了」(20「夕きり」)
- ③ 「以紹巴校合朱点句句切之本一校了」(21「みのり」・25「屋とり木」・26「あつま屋」・27「うきふね」)
- ④ 「以紹巴校合朱点句句切本一校了」(22「にほふ宮」)
- ⑤ 「以紹巴本句句切朱点／一校了」(23「はし姫」)
- ⑥ 「以紹巴自筆本句句切朱点／一校了」(24「しるかもと」)
- ⑦ 「以紹巴本朱点句句切一校了」(28「かしは木」)
- ⑧ 「以紹巴本一校了／句句切朱点」(29「竹河」)

以上の点から、ホノルル美術館蔵「もみちの賀」と、現在は所在不明である古書販売目録断片記載の三帖は、いずれも支子文庫本の僚巻と考えられ、それらを合わせた三十三帖は、おそらくは元来全巻を備えた揃い本からの一部と推測されるのである。

なお、この支子文庫本のほかには、筆者の調査範囲内でも同種の横本『源氏物語』は見出せていない<sup>8)</sup>。唯一管見に及んだ近似例としては、国文学研究資料館高乗勲文庫所蔵の列帖装一冊(89.286)が縦16.4×横23.4cmの横本として存するが、これは若紫巻・帚木巻の全文と紅葉賀巻の一部を収めた抄出本であり、書写年代も当該伝本より下ると推定される。

### 三 本文

ホノルル美術館蔵「もみちの賀」の本行本文は青表紙本系統に属し、特に二字以上の異同を検すると、以下のように肖柏本・日大三条西家本・正徹本・書陵部三条西家本・大正大学蔵本・天正紹巴本・慶長紹巴本との一致が確認できる(諸本略号と掲出方法については翻刻凡例を参照)。これは前掲「故田村専一郎先生旧蔵「支子文庫」報告」の「底本は肖柏本系統らしい」との記述と適合する。

・二條院には人むかへ給へるなりと (6才4〜5)

…むかへ給ふなりと【大横陽】、むかへ給へなりと【榊池穂吉】、むかへたまへりと【湖】、むかへ給へるなりと【肖三徹証正紹巴】

・いのりきこえ給し佛の御しるしにやと【おほゆるに】(9ウ11〜10オ1)

・おほゆ【大横榊陽池穂吉湖】、おほゆるに【肖三徹証正紹巴】

・こゝろなけに【いはけ〇本々きこゆるなと】(24オ9〜10)

・いわけて【大横榊陽池穂吉湖】、いはけ〇て【池】、いはけなく【肖

### 三徹証正紹

・この君も人よりはことなるを(29オ6〜7)

・いとことなる【大横榊陽池穂吉湖】、ことなる【肖三徹証正紹巴】

・君はとけてしも【ねられ給はぬ】〇ろなれは(31ウ6〜7)

・ね給はぬ【大横榊陽池穂吉湖】、ねられ給はぬ【肖三徹証正紹巴】

・君をいかにしなしきこえぬるにかと【わひしさに】(32ウ4〜5)

・しきこえぬるかと【大】、しきこえぬるにかと【横榊陽池三穂吉】、

しなしきこえぬるにもと【紹】、しなしきこえぬるにかと【肖徹

### 証正巴湖

この本行本文に対して、当該伝本では本行とは別筆による書き入れが縦横に施されており、それは本行本文への校訂、語句への注記、文の切れ目を表す朱点など多岐に及ぶ。これと同様の書き入れは、支子文庫本のうち識語を有さない十二帖についても等しく施されていることから、前掲の識語①〜⑧の内容は「もみちの賀」に対しても及んでいると考えられる。識語②・③・⑤の記述から、「もみちの賀」への書き入れに用いられたのは、里村紹巴の筆にして、朱点での句切と他本による校合が施された伝本だったと考えられる。

紹巴本を用いた書き入れが、当該伝本のどの部分まで及んでいるかに

ついては、「句切朱点／一校了」といった識語の解釈も相俟って一考を要する。前掲「故田村専一郎先生旧蔵「支子文庫」報告」は「大島本系統本で訂正したところが多い。朱による句読点は、紹巴本によったもの」とすることから、あくまで「句切朱点」のみを紹巴本による校合対象とみて、本文校訂については他伝本の使用を想定していたと思われる。しかし以下の例からは、校訂後の本文と慶長紹巴本(諸本略号「巴」、今治市河野美術館蔵)との一致が確認でき、「一校了」についても紹巴本による本文校訂を示したものと考えられる。

・思いてきこえ給ふとき【あま君をこひきこえ給ふ】(7ウ3〜4)

・とき【大横榊陽池肖三穂吉徹証正紹】、ときは【巴湖】

・御その【うしろ】ひきつくるひなと(13ウ6)

・うしろ【大横榊陽池肖穂吉徹証正紹】、御うしろ【三証巴湖】

・もりこそなつのとみゆるゆとて(27ウ5〜6)

・みゆる【大横榊陽池肖吉徹正湖】、見ゆ【め】る【穂証】、見ゆ

めり【紹】、みゆる【三巴】

・人の御なくさめにとおもひつれと見まほしきは(29オ8〜9)

・おもひつれと【大榊池肖穂吉証正紹湖】、思つれと【朱】【徹】、

おもへれと【横陽三巴(陽は思つれと力)】

・まことは【うつし心か】と【たはふれにくしや】(33ウ8〜9)

・うつし心か【よ】横榊陽池肖三吉徹証正紹湖】、うつし心か【よ

【朱】【大】、うつしこゝろか【穂】、うつし心か【巴】

・物かくしは【こり〇ぬらんかし】(36オ1)

…こりぬらむかし【大横榊陽池三穂吉徹証正湖】、こり給ぬらんか  
し【肖紹巴】

上野英子「潮廻舎文庫蔵『紹巴奥書本源氏物語』と『紹巴抄』」および「紹巴本源氏物語の本文史」<sup>9)</sup>によれば、紹巴が書写に関わった『源氏物語』の伝本には、

①「潮廻舎文庫蔵、弘治三年紹巴奥書（写本五一冊）」

↓紹巴が校合し奥書を起草。『紹巴抄』所用本文に近いとされる。

②「同（潮廻舎文庫蔵・筆者注）紹巴加点头本「行幸」（写本一冊）」

↓次伝本の僚卷。

③「思文閣目録掲載、永祿六年紹巴等書写・加点头（写本五〇冊）」

↓寄合書。紹巴は十帖分を書写し、全帖に朱点・句点を施す。

④「蓬左文庫蔵、天正八年紹巴書写校合本（写本五四冊）」

↓寄合書。紹巴は桐壺巻を書写、一校し、奥書を起草。本稿諸本略号の「紹」。

⑤「今治市河野美術館蔵、慶長二年紹巴奥書（写本五四冊）」

↓寄合書。紹巴は関屋巻を書写、加証奥書を加える。本稿諸本略号の「巴」。

の五種があるが、①～③については本文未見であり、当該伝本の校合に用いられた紹巴本の厳密な特定には至らない。ただし『紹巴抄』所用本文との比較と行くと、「かたみにつきす」(9ウ8)と「かたみにつきせず」<sup>10)</sup>「くねくしう」(22ウ8)と「くねくしく」など、所用本文との異同がありながら校訂の施されていない例が散見することから、①について

は候補から除外してよいと思われ、前掲した異同の傾向は⑤の使用を示唆、また朱点・句点のある③も有力と考えられる。

紙幅の都合から本稿では踏み込まないが、書き入れのうち大部分を占める語句への注記についても、その内容と性質は勿論のこと、使用された紹巴本の特定に際しても大いに検討の余地を残す。この点については、僚卷たる支子文庫本の全体を視程に入れた上で追考を期したい。

## 注

(1) リチャード・レインの年譜とコレクション購入の経緯については、石上阿希「リチャード・レインの春画研究―京都と春画」(『日文研』第五十五号、二〇一五年九月)による。

(2) 基盤研究(B)「ポストン美術館所蔵日本古典集成」(代表・松原孝俊、二〇一〇年度～二〇一二年)、同「ホルル美術館所蔵レインコレクションの書誌的研究」(代表・中野三敏、二〇一三年度～二〇一六年度)、同「在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究」(代表・山下則子、二〇一四年度～二〇二〇年度)、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「在米日本古典籍(リチャード・レインコレクション)の調査研究と教育活用に関する研究」(代表・神作研一、二〇一八年度～二〇二二年度)。  
(3) <https://arthonoluluuseum.org/collections> (二〇二〇年九月一日閲覧)。

(4) 加藤昌嘉「作り物語のエレメント」(『源氏物語』前後左右)、勉誠出版、二〇一四年。礎稿の初出は二〇〇九年)。

(5) 『平成一七年度九州大学開学記念行事 第四六回附属図書館貴重文物展示 源氏物語の本いろいろ―源氏物語はどんな本で読まれてきたか―』(九州大学附属図書館、二〇〇五年)。なお同目録の掲載図版は夕顔巻の巻頭部分。

(6) 九州大学国語国文学会有志「故田村専一郎先生旧蔵「支子文庫」報告」(『語文研究』第四十三号、一九七七年六月)。

(7) 九州大学附属図書館所蔵「蔵書目録」和書(請求記号「支子文庫」田村教授関係資料／雑16)。

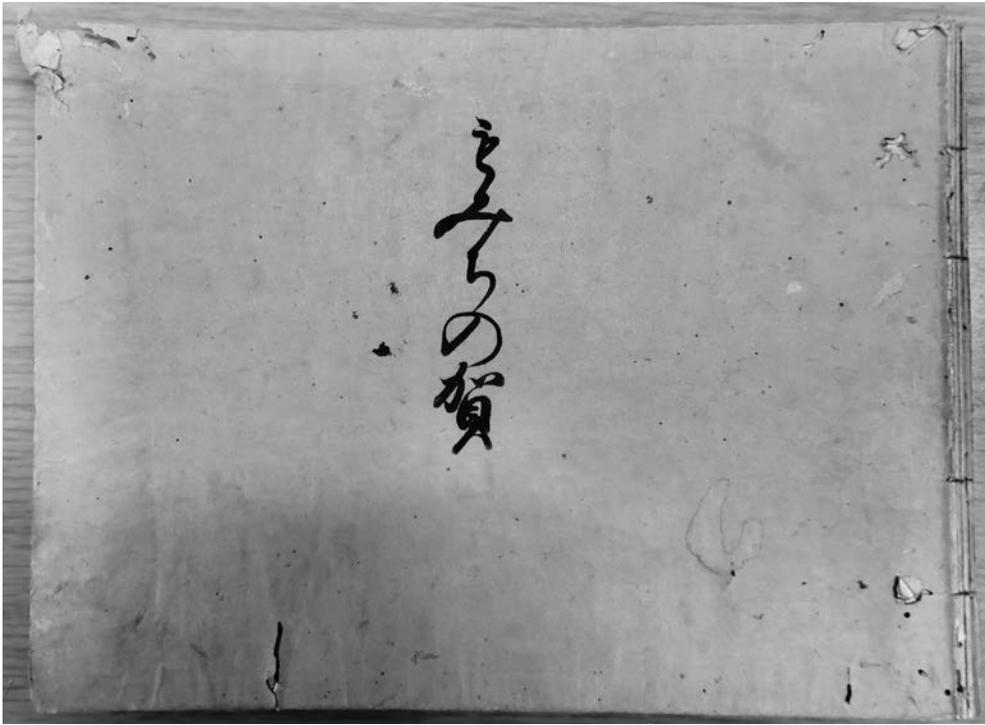
(8) ただし、近年発表された瀧山嵐「伝三条公敦筆源氏物語断簡考」(『早稲田大学図書館紀要』第六十七号、二〇二〇年三月)は、三条公敦を伝称筆者とする計十一葉の断簡について、裁断前の横寸法が「平均一七糎から一八糎であることが想定できる」ことを指摘し、元の装訂について「横本の可能性を見出せる」と述べている。室町時代後期における横本『源氏物語』の存在を示唆する報告として、本稿と併読されたい。

(9) 上野英子「潮廻舎文庫蔵「紹巴奥書本源氏物語」と『紹巴抄』」(『年報(潮廻舎文庫研究所)』第八号、二〇一〇年三月)、「紹巴本源氏物語の本文史―野村精一先生と潮廻舎文庫の共同研究を発端として」(『実践国文学』第九十四号、二〇一八年十月)。

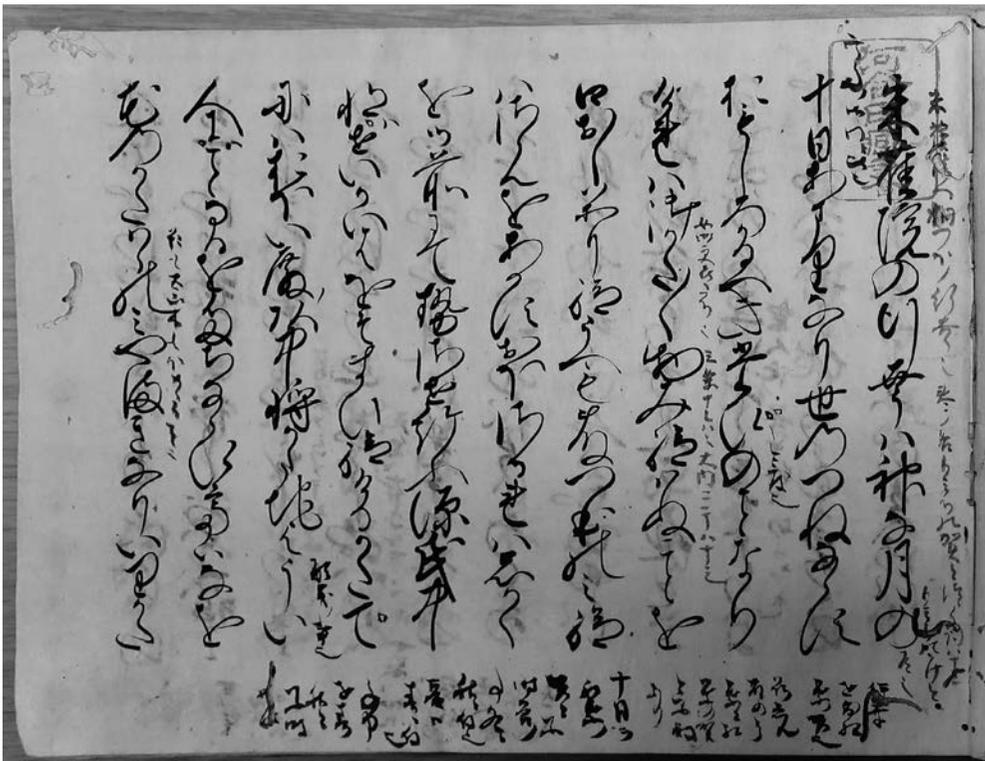
(10) 『紹巴抄』の引用は中野幸一編『源氏物語古註釈叢刊 第三卷 紹巴

抄』(武蔵野書院、二〇〇五年)による。

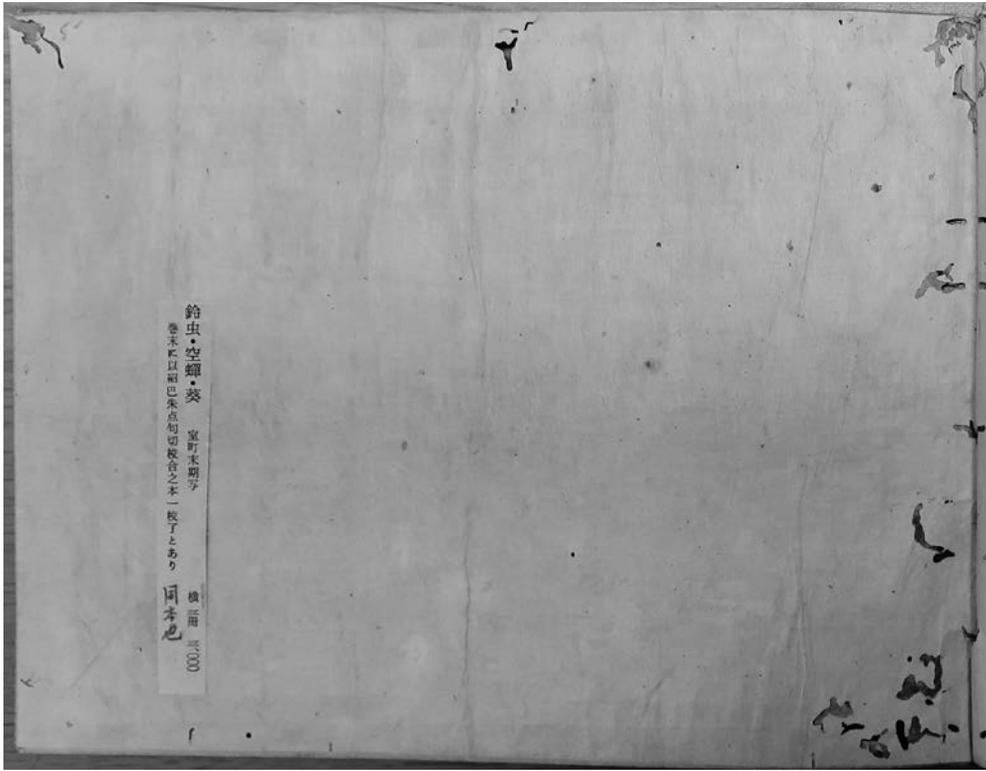
付記 貴重な資料の利用をご許可いただいたホノルル美術館、九州大学附属図書館、ならびにレインコレクションについてのご教示を賜ったホノルル美術館東洋美術部の南清恵氏に御礼を申し上げます。なお本稿は、平成三十一年度人間文化研究機構若手研究者海外派遣プログラム(研究課題名「在ハワイ古典籍の調査に基づく平安文学受容の研究」、二〇二〇年一月～二月)による成果の一部である。



〔図版1〕ホノルル美術館蔵「もみちの賀」表紙



〔図版2〕同巻頭



(図版3) 同巻末、古書販売目録の紙片貼付箇所



(図版4) 九州大学附属図書館支子文庫蔵「源氏物語」夕顔巻表紙



ホノルル美術館蔵「もみちの賀」翻刻・青表紙本系統校異

(凡例)

・ホノルル美術館リチャード・レインコレクション所蔵「もみちの賀」を底本とし、本行本文、および本文整定に関わる注記(見消・補入・傍記。主に別筆だが一部は同筆とみられる)を翻刻した。本文整定に関わらない注記はすべて省略した。

・各丁の冒頭に丁数と表裏の別を示し、各行の冒頭には行数を示した。

・見消・墨消は二重取消線、補入記号は「○」、傍記はルビで示した。

(例)「給<sup>ゆ</sup>仕<sup>は</sup>」「人に○ことなる」

・【校異】欄には、底本の一次本文(整定前の本文)と大島本の間に異なる箇所(表記の違いは除く)を、『源氏物語大成』の該当ページ数とともに示した。各箇所の掲出順は、行数・底本本文・底本と本文をもつ青表紙本系統伝本の略号(底本が独自異文の場合はN/Aと注記)・底本に対する大島本の異文の順である。

・底本と本文をもつが特記事項のある伝本については、伝本略号とあわせて本文を掲げた。また、底本が独自異文の箇所について、それに近い本文を持つ伝本がある場合や、注意すべき異文がある場合、『参考』

として伝本略号と本文を掲げた。

・異同の確認は池田亀鑑『源氏物語大成』(中央公論社、一九五三年)および加藤洋介「源氏物語校異集成(稿)」([http://www2.tic.kansai-u.ac.jp/~yk\\_kato/index.html](http://www2.tic.kansai-u.ac.jp/~yk_kato/index.html))、二〇二〇年九月一日閲覧)に拠った。ただし校異本文の掲出に際し、見消・補入・傍記の表記方法は前記の形式に改めてある。伝本の略号は以下の通り依拠する。

大::大島本(古代学協会蔵)

横::横山本

榊::榊原家本(国文学研究資料館蔵)

陽::陽明文庫本

池::池田本(天理図書館蔵)

肖::肖柏本(天理図書館蔵)

三::三条西家本(日本大学蔵)

穂::穂久邇文庫蔵本

吉::伏見天皇本

徹::正徹本(宮内庁書陵部蔵)

証::三条西家本(宮内庁書陵部蔵)

正::大正大学蔵本

紹::紹巴本(蓬左文庫蔵)

巴::紹巴本(今治市河野美術館蔵)

湖::湖月抄

1才1 朱雀院の行幸は神な月の

2 十日あまりなり世のつねならず

3 おもしろかるへきたひのことなり

4 ければ御かたく物み給はぬことを

5 口おしかり給うへも藤つほのみ給

6 はさらんをあかすおほざるればしかく

7 を御前にてせさせ給ふ源氏中

8 将○せいはいはをそまひ給けるかたて

9 にはおほい殿頭中将かたちようい

10 人に○ことなるをたちならひてはなを

11 花のかたはらのみやまきなりいりかた

1ウ1 の日かけさやかにさしたるにかくの

2 こえまさり物の番おもしろき程に

3 おなしまひのあしふみおも、ちよに

4 みえぬさまなりゑいなとし給へるはこ

5 れやほとけの御かれうひんかの

6 こゑならんときこゆおもしろくあ

7 はれなるにみかとなみたをのこひ

8 給事にかんたちめみこたちもみ

9 な、き給ぬゑいはて、そてうちな

10 をし給へるにまちとりたるかくの

11 には、しきにかほの色あひま

【校異】大成 0237

7 源氏中将(横)源し○中将(榊池)∴大「源氏中将は」。

9 頭中将(榊陽池)○中将(頭)肖三穂吉徹証正巴湖)∴大「とふの中将」。

10 人に(横池)∴大「人には」。

【校異】大成 0237

2 物の音(N/A)∴大「もの、」。

7 のこひ給ふに(徹証正)∴大「のこひ給ひ」。

2オ1 さりてつねよりもひかるとみえ給

2 東宮の女御かくめてたきにつけ

3 てもたゝならすおほしてかみなと

4 空にめて給つへきかたちかなうたて

5 ゆゝしとの給をわかき女房などは

6 心うしとみゝと、めけり藤つほはおほ

7 けなき心なからましかはましてめ

8 てたく見えましとおほすに夢の心

9 ちなんし給ける宮はやかて御とのゐ

10 なりけりけふのしかくはせいはいは

11 に事みなつきぬないかゝみ給つると

【校異】大成 0237 ~ 0238

4めて給つ(N/A) : 大「めてつ」。

6おほけなき心(肖三徹証正巴湖) : 大「おほけなき心の」。

10なりけり(横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) : 大「なりける」。

2ウ1 きこえ給へはあいなう御いらへきこえ

2 にくゝてことにはへりつとはかりきこ

3 え給ふかたてもけしうはあらず

4 こそみえつれまひのさまでつかひ

5 なんいゑのこはことなるこの世になを

6 えたるまひのしおのことも、けに

7 いかしこけれとこゝしうなまめいた

8 るすちをえみせぬ心見の日かく

9 つくしつれはもみちのかけやさ

10 うさうしくと思へとみせたてまつ

11 らんの心にてよういせさせつるなど

【校異】大成 0238

6まひのし(N/A) : 大「まひの」。《参考》池巴湖「まひの師の」。

8えみせぬ(N/A) : 大「えなむみせぬ」。

- 3才1 きこえ給ふつとめて中将○君いかに御  
 2 覽しけんよにしらぬみたり心ちな  
 3 からこそ  
 4 物おもむにたちまふへくもあらぬ  
 5 身のそてうちふりし心しりきや  
 6 あなかしことある御かへりめもあや  
 7 なりし御さまかたちに見給ひしの  
 8 はれすやありけん  
 9 からひとのそてふることはとをけ  
 10 れとたちゐにつけてあはれとはみき  
 11 おほかたにはとあるをかきりなくめ

【校異】大成 0238

- 1 中将君 (N/A) …大「中将の君」。  
 4 物おもひに (陽穂) …大「ものおもふに」。  
 11 かきりなく (N/A) …大「かきりなふ」。  
 11 めつらしく (横榊陽肖) …大「めつらしく」。

- 3ウ1 つらしくかやうのかたさへたとくし  
 2 からす人のみかとまておほしやれる  
 3 御きさきことはのかねてもとほ、  
 4 えまれてち経のやうにひろけて  
 5 みゐ給へり行幸にはみこたちなど  
 6 世にのこる人なくつかふまつり給へり  
 7 東宮もおはしますれいのかくの  
 8 ふねともこきめくもてもろこしこ  
 9 まとつくしたるまひともくさおほ  
 10 かかかくのこゑつ、みのをとよをひ、  
 11 かす一日の源氏の御ゆふかけゆ、

【校異】大成 0238 ~ 0239

- 2 おほしやれる (横陽池紹巴) …大「おもほしやれる」。  
 4 ひろけて (横陽池湖) …大「ひきひろけて」。  
 8 めくらし (N/A) …大「めくりて」。  
 9 おほかる (N/A) …大「おほかり」。

- 4才1 しょうおほされてみす経など所く  
 2 にせさせ給ふをきく人もことはりと  
 3 あはれかりきこゆるに春宮の女御  
 4 はあなちなりとにくみきこえ給ふ  
 5 かいしろなど殿上人地下も心こ  
 6 となりとよの人に思はれたるいう  
 7 そくのかきりと、のへさせ給へ<sup>り</sup>  
 8 宰相ふたりさ衛門のかみ右衛門の  
 9 かみひたりみきのかくのことをこな  
 10 ふまひのしともなとよになへて  
 11 ならぬをとりつゝをのくこもり

【校異】大成 0239

- 6よの人に (N/A) …大「よ人に」。《参考》徹「世〇人に「朱」」。  
 7 給へる (N/A) …大「給へり」。

- 4ウ1 ゐてなんならひけるこたかきもみちの  
 2 かけに四十人のかいしろいひしらす  
 3 ふきたてたる物のねともにあひ  
 4 たるまつか<sup>せ</sup>まことのみやまおろし  
 5 ときこえてふきまよひ色くくに  
 6 ちりかふこのの中より青海波  
 7 のか、やき出たるさまいとおそろしき  
 8 までみゆかさしのもみちいたうちり  
 9 すきてかほのほひに気をされ  
 10 たる心ちすれは御前なるきくを  
 11 おりてさ大将さしかへ給ふ日ゆくれ

【校異】大成 0239

- 4まつかけ (N/A) …大「まつ風」。  
 11日のくれかゝる程 (N/A) …大「日暮かゝるほとに」。

- 5才1 かゝる程○けしきはかりうちしくれて空
- 2 のけしきさへみしりかほなるにさる
- 3 隼いみしきすかたにきくのいろく
- 4 うつろひえならぬをかさしてまひ
- 5 けふはまたなきてをつくしたる
- 6 いらあやのほとそゝろさむくこの世
- 7 の事ともおほえず物みしるまし
- 8 きしも人などの木本いはかくれ
- 9 やまのこのはにうつもれたるさへすこ
- 10 し物の心しるはなみたおとしけり
- 11 承香殿の御はらの四のみこまた

【校異】大成 0239～0240

- 2さるは(肖三徹証正紹) …大「さる」。
- 4かさしてまひ (N/A) …大「かさして」。

- 5ウ1 わらはにて秋風楽まひ給へるなんさ
- 2 しつきの見物なりけるこれらに
- 3 おもしろさつきにければことくには
- 4 めもうつらすかへりてはことさまし
- 5 にやありけんそのよ源氏中将正三
- 6 位し給ふ頭中将正下のか、いし
- 7 給かんたちめはみゑさるへきかきり
- 8 よろこひし給ふもこの君にひかれ
- 9 給へるなれば人のめをもおとろかし
- 10 心をもよろこはせ給ふむかしのよゆか
- 11 しけなり宮はそのころまかて

【校異】大成 0240

- 3おもしろさ(肖三徹(おもしろさ。〔朱〕証正紹巴) …大「おもしろさの」。
- 3ことくには (N/A) …大「こと事に」。
- 5源氏中将(穂吉紹) …大「源氏の中将」。
- 7みる (N/A) …大「みな」。

6才1 給ぬれはれいのひまもやとう

2 か、ひありき給ふをことにておほいと

3 のにはさはかれ給ふいと、かのわか

4 さたつねとり給てしを二條院に

5 は人むかへ給へるなりと人のきこえけ

6 れはいと、心つきなしとおほえた

7 りうちくの有さまはしり給はずさも

8 おほさんはことはりなれと心うつくしふ

9 れいの人のやうにうらみの給は、われも

10 うらなくうちかたりてなくさめきこえ

11 てん物を思はずにのみとりない給ふ

【校異】大成 0240

5むかへ給へるなりと(肖三徹証正紹巴)∴大「むかへ給ふなりと」。

6うと、(N/A)∴大「うと」。

6おほえ(N/A)∴大「おほえ」。

8心うつくしふ(N/A)∴大「心うつくしく」。《参考》横陽池肖湖「こゝろうつくしく」。

6ウ1 心つきなさにさも有ましきすさひ

2 こともいてくるそかし人の御有さまの

3 かたほにその事のあかぬとおほゆる

4 きすもなし人よりさきにみたてま

5 つりそめてしかはあはれにやんことなく

6 思きこゆる心をもしり給はぬ程こそ

7 あらめついにはおほしなをされなんと

8 おたしくかるくしからぬ御心のほども

9 をのつからとたのまる、かたはこと也

10 けりおさなき人は見つい給まゝに

11 いとよき心さまかたちにてなに心なく

【校異】大成 0240 ~ 0241

11なに心なく∴大「なに心もなく」。傍記は本文同筆か。《参考》吉「なに心なく」、巴「何心なく」。

- 7才1 むつれまとはしきこえ給ふしはし殿の  
 2 うちの人にもたれとしらせしとおほ  
 3 してなをはなれたるたいに御しつらひ  
 4 になくしてわれもあけくれいりおほし  
 5 てよろつの御事ともを、しへきこえ給  
 6 <sup>ひ</sup>奉てほんかきてならはせなとしつゝた、  
 7 ほかなりける御むすめをむかへ給へ  
 8 らんやうにそおほしたるまところけい  
 9 しなとをはしめことにわかちて心も  
 10 となからすつかふまつらせ給これみつより  
 11 ほかの人はおほつかなくのみおもひきこえ

【校異】大成 0241

- 5 給ふ（榊（たまふ））…大「給い」。《参考》横陽池肖三穂吉徹証正紹  
 巴湖「給」。  
 8 まところ（Z/A）…大「まむ所」。

- 7ウ1 たりかのち、宮もえしりきこえ  
 2 給はさりけりひめ君はなをときく  
 3 思いてきこえ給ふとき○<sup>は</sup>あま君を  
 4 こひきこえ給ふおりくおほかり君  
 5 のおはするほとはまきはし給ふをよ  
 6 るなどはときくこそとまり給へこ、  
 7 かしこの御いとまなくてくるれはいて給  
 8 ふをしたひきこえ給ふおりなとある  
 9 をいとらうたく思きこえたまへり  
 10 二三日うちにさふらひおほい殿にも  
 11 おはするおりはいといたくしなとし

【校異】大成 0241

- 4 おりく（Z/A）…大「おり」。  
 10 おほい殿にも（池（おほいとのもの））…大「おほとのもの」。

- 8才1 給へは心くるしうては、なきこもたらん
- 2 心地してありきもしつ心なくおほえ
- 3 給ふ僧都はかくなんとき、給ひてあ
- 4 やしき物からうれしとなんお
- 5 ほしけるかの御法事なとし給
- 6 にもいかめしうとふらひきこえ給へり
- 7 藤つほのまかて給へる三条の宮に
- 8 御有さまもゆかしうてまいり給へ
- 9 れは命婦中納言の君なかつか
- 10 さなとやうのひとくたいめしたり
- 11 けさやかにもてなし給ふかなとやす

【校異】大成 0241 ~ 0242

- 3 かくなん (NA) : 大「かくなむと」。
- 4 おほしける (池湖) : 大「おもほしける」。
- 9 中納言の君 (陽肖三徹証正巴湖) : 大「中納言君」。
- 11 けさやかに (横池湖) : 大「けさやかにも」。

- 8ウ1 からすおもへとしつめておほかたの
- 2 御物かたりきこえ給ふほとに兵
- 3 部卿の宮まいり給へりこの君おはす
- 4 とき、給てたいめし給へりいとよ
- 5 しあるさまして色めかしくなよ
- 6 ひ給へるを女にてみんはをかしかりぬ
- 7 へく人しれすみたてまつり給にもかた
- 8 かたむつましうおほえ給てこま
- 9 やかに御物かたりなときこえ給ふ
- 10 宮もこの御さまのつねよりことにな
- 11 つかしう打とけ給へるをいとめてた

【校異】大成 0242

- 2 兵部卿の宮 (肖吉徹証正巴湖) : 大「兵部卿宮」。
- 5 色めかしく (吉 (いろめかしく)) : 大「色めかしう」。
- 8 むつましう (横榊陽 (んつましう) 池肖穂紹湖) : 大「むつましく」。
- 10 つねより (横榊陽池肖三吉徹証正紹巴湖) : 大「つねよりも」。

- 9才1 しとみたてまつり給てむこになとは  
 2 おほしよらて女にて見はやといろめき  
 3 たる御心にはおもほすくれぬれはみ  
 4 すのうちへいり給をうら山しくむか  
 5 しはうへの御もてなしにいとけち  
 6 かく人つてならて物をもきこえ給し  
 7 をこよなくうとみ給へるもつらう  
 8 おほゆるそわりなきやしはくも  
 9 さふらうへけれとことそと侍らぬ程は  
 10 をのつからをこたり侍るをさるへき  
 11 ことなどはおほせ事も侍らんこそ

【校異】大成 0242

- 4うちへ (N/A) …大「内に」。  
 7こよなく (N/A) …大「こよなく」。

- 9ウ1 うれしくなとすくくしうて出給  
 2 ぬ命婦もたはかりきこえんかたな  
 3 く宮の御けしきも有しよりはい  
 4 と、うきふしにおほしをきて心と  
 5 けぬ御けしきもはつかしういとお  
 6 しければなにのしるしもなくてすき  
 7 ゆくはかなのちきりやおほしみたる、  
 8 ことかたみにつきす少納言はおほえす  
 9 をかしきよをみるかなこれもこあま  
 10 うへの御ことをおほして御をこなひ  
 11 にもいのりきこえ給し佛の御しる

【校異】大成 0242 ~ 0243

- 5はつかしう(横陽池肖三穂徹)はつかしう「朱」証正紹巴湖 …大「は  
 つかしく」。  
 8つきす (N/A) …大「つきせす」。  
 10御こと (N/A) …大「この御事」。(参考)池「〇御事」。

- 10オ 1 しにやとおほゆるにおほい殿いとやん  
 2 ことなくておはしこ、かしこあまた  
 3 か、つらひ給ふをそまことにおとなひ  
 4 給はんほとにはむつかしき事もやと  
 5 おほえけるされとかくとりわき給へ  
 6 る御おほえの程はいとたのもしけなり  
 7 かし御ふくは、かたは三月こそはとて  
 8 つこもりに○ぬかせたてまつり給ふを  
 9 又おもなくておひいて給しかは  
 10 まはゆきいろにはあらてくれなる  
 11 むらさきやまふきの地のかきり

【校異】大成 0243

- 1 おほゆるに(肖三徹証正紹巴)∴大「おほゆ」。  
 2 おはし(横榊陽池肖三穂吉徹証正紹湖)∴大「おはします」。  
 4 ほとには(肖三徹証正紹巴湖)∴大「ほとは」。  
 8 つこもりに(N/A)∴大「つこもりには」。

- 10ウ 1 をれる御こうちきなとをき給へるさ  
 2 まいみしういまめかしうをかしけ  
 3 なりおとこ君は朝拜にまいり給と  
 4 てさしのそき給へりけふよりはおとな  
 5 しくなり給へ<sup>る</sup>やとてうちえみ  
 6 給へるいとめてたうあい行つき給へ  
 7 りいつしかひいなをしすへてそ、ゆま  
 8 る給へる三尺のみつしひとよろひに  
 9 しなくしつらひすへて又ちいさき  
 10 屋ともつくりあつめてたてまつり  
 11 給へるを所せきまであそひ、ろけ給

【校異】大成 0243 ~ 0244

- 2 いまめかしう(横榊陽池肖穂湖)∴大「いまめかしく」。  
 7 そ、めき(N/A)∴大「そ、き」。

- 11オ 1 へりなやらうとていぬきかこれをこ  
 2 ほち侍にければつくろひ侍そとて  
 3 いとたいしとおほいたりけにいと心な  
 4 き人のしわさにも侍かないまつくろは  
 5 せ侍らんけふはこといみしてな、き給そ  
 6 とて出給けしき所せきを人く  
 7 はしに出てみたてまつればひめ君も  
 8 たちいて、みたてまつり給てひいな  
 9 のなかの源氏の君つくろひたて、う  
 10 ちにまいらせなとし給ふことしたに  
 11 すこしおとなひさせ給へとをにあまり

【校異】 大成 0244

- 4 侍かな（陽池首三徹証正紹巴湖）…大「侍なるかな」。  
 5 な、き給そ（N/A）…大「な、ひたまひそ」。

- 11ウ 1 ぬる人はひいなあそひはいみ侍る物を  
 2 かく御おとこなとまうけたてまつ  
 3 り給てはあるへかしうしめやかにてこそ  
 4 みえたてまつらせ給はめ御くしまいる程を  
 5 たに物うくせさせ給なと少納言き  
 6 こゆ御あそひにのみ心いれ給へれば  
 7 はつかしうとおもはせたてまつらんと  
 8 ていへは心のうちにわれはさはおとこ  
 9 まうけてけりこのひとくのおとこ  
 10 とてあるは見にく、こそあめれ我は  
 11 かくをかしけにわかきおとこをも、

【校異】 大成 0244

- 1 ひいなあそひは（N/A）…大「ひ、なあそひは」。（参考）徹「ひいな  
 あそひは「朱」」。  
 7 はつかしうと（N/A）…大「はつかしと」。  
 10 あめれ（N/A）…大「あれ」。  
 11 わかきおとこをも（N/A）…大「わかき人をも」。

- 12才 1 たりけるかなといまそおほししりける  
 2 さはいへと御としの数そふしるしなめり  
 3 かしかくおさなき御けはひの事にふれて  
 4 しるければ殿のうちのひとくもあやしと  
 5 思ひけれといとかくよつかぬ御そひふし  
 6 ならんとは思ひけりけりうちよりお  
 7 ほい殿にまかて給へられいのうるは  
 8 しくよそほしき御さまにて心うつくし  
 9 き御けしきもなくくるしければこと  
 10 しよりたにすこしよつきてあらた  
 11 め給御心のみえはいかにうれしからんなど

【校異】大成 0244 ~ 0245

- 1 おほししりける(横陽池紹湖) : 大「おもほししりける」。  
 5 かく (N/A) : 大「かう」。  
 6 思ひけりけり : 大「おもはさりけり」。見消傍記は本文同筆か。  
 7 うるはしく (N/A) : 大「うるはしう」。

- 12ウ 1 きこえ給へれとわざと人すへてかしつき  
 2 給ふとき、しよりはやくことなくおほし  
 3 さためたる事にこそはと心のみをかれて  
 4 いと、うとくはつかしうおほざるへし  
 5 しいてみしらぬやうにもてなしてみ  
 6 たれたる御けはひにはえしも心つよから  
 7 す御いらへなとうちきこえ給へるはなを  
 8 人よりはいとことなりよとせはかりかこ  
 9 のかみにおはすれはうちすこしはつ  
 10 かしげにさかりにと、のをりてみえ  
 11 給ふなに事かはこの人のあかぬ所は

【校異】大成 0245

- 1 給へれと (N/A) : 大「たまへと」。  
 2 き、し (N/A) : 大「き、給し」。  
 4 はつかしう (横陽肖紹) : 大「はつかしく」。  
 9 うちすこし (横陽穂紹) : 大「うちすくし」。

- 13才 1 物し給わか心のあまりけしからぬすさ  
 2 ひにかくうらみられたてまつるそかし  
 3 とおほししらるおなし大臣ときこゆる  
 4 中にもおほえやんことなくおはするか  
 5 宮はらにひとりいつきかしつき給  
 6 御心おこりいとこよなくてすこしもを  
 7 ろかなるをはめさましと思きこえ給へ  
 8 るをおとこ君はなとかいとさしも  
 9 とならばひ給ふ御心のへたてともな  
 10 るへしおともかくたのもしけな  
 11 き御心をつらしとは思きこえ給な

【校異】 大成 0245

- 4 おはするかの (N/A) …大「おはするか」。  
 11 つらしとは (N/A) …大「つらしと」。

- 13ウ 1 からみたてまつり給ふ御ときははうらみも  
 2 わすれてかしくつきいとなみきこえ給つ  
 3 とめていて給ふところにさしのそ  
 4 き給て御さうそくし給になたかき  
 5 御をひ御てつからもたせてわたり給て  
 6 御その○うしろひきつくろひなど御く  
 7 つをとらぬはかりし給いとあはれなり  
 8 これは内宴などいふ事も侍なるを  
 9 さやうのおりにこそなときこえ給へと  
 10 それはまさされるも侍ゆ<sub>り</sub>これはた、  
 11 めなれぬさまに侍れはなんとてし

【校異】 大成 0245 ~ 0246

- 1 御ときは (N/A) …大「時は」。  
 7 とらぬはかり (首紹) …大「とらぬはかりに」。  
 9 きこえ給へと (横(きこえたまへ<sub>と</sub>) 池首三徹証正紹巴湖) …大「きこえ給へは」。  
 10 侍める (N/A) …大「侍り」。  
 11 さまに侍れは (N/A) …大「さまなれは」。

- 14オ 1 いてさ、せたてまつり給けによろつ  
 2 にかしつきたて、みたてまつり給に  
 3 いけるかひありたまさかにも  
 4 か、らん人をいたし入てみんにますこと  
 5 あらしとみえ給ふ参さしにとても  
 6 あまた所もありき給はす内春宮  
 7 一院はかりさては藤つほの三條の宮  
 8 にそまいり給へるけふは又ことにも見  
 9 え給かなねひ給ふま、にゆ、しき  
 10 まてなりまさり給ふ御有さまかなと  
 11 人くめてきこゆるを宮は御木丁の

【校異】大成 0246

- 11宮は（横（宮）○）池（巴湖）…大「宮」。  
 11御木丁のひまより（横（みき丁のひまより）池（みき丁のひまより）  
 巴湖（御几帳のひまより）…大「き丁のひまより」。

- 14ウ 1 ひまよりほのみ給ふにつけても  
 2 おほす事しけかりけりこの御こ  
 3 とのしはすもすきにし○御心もとな  
 4 きにこの月はざりともと宮人  
 5 もまちきこえ給ふうちにもさる御心  
 6 まうけともあるにつれなくてたちぬ  
 7 御物の氣にやとよ人もきこえさはく  
 8 を宮いとわひしくこの事により  
 9 身のいたつらになりぬへきこと、お  
 10 ほしなげくに御心ちもいとくるしう  
 11 てなやみ給ふ中將の君はいと、思

【校異】大成 0246

- 2おほす（穂）…大「おもほす」。  
 3すきにし御心もとなきに（ $\text{N}\backslash\text{A}$ ）…大「すきにしか心もとなきに」。  
 5きこえ給ふ（ $\text{N}\backslash\text{A}$ ）…大「きこえ」。  
 5御心まうけともあるに（横（ある○）陽肖三徹証正紹巴湖）…大「御  
 心まうけともあり」。《参考》榊池穂吉「御心まうけともある」。  
 8わひしく（吉）…大「わひしう」。  
 10くるしうて（横陽池肖穂紹）…大「くるしくて」。

- 15才 1 あはせてみすほうなど弗さとはな  
 2 くて所くせさせ給ふよの中  
 3 のさためなきにつけてもかくは  
 4 かなくてや、みなんととりあつめ  
 5 てなけき給に二月十日の  
 6 ほどにおとこ御こむまれ給ぬれ  
 7 はなこりなくうちにもみや人も  
 8 よろこひきこえ給ふいのちなかく  
 9 もとおほすは心うけれとこ弗き  
 10 てんなどのうけはしけにの給ふと  
 11 き、しをむなしくき、なし給

【校異】大成 0246 ~ 0247

- 1 わさとはなくて (N/A) …大「さとはなくて」。  
 9 おほす (N/A) …大「おもほす」。  
 11 き、なし給はましかは (横) き、なし給はまし〇<sup>か</sup>は (陽肖三穗徹証正 紹巴湖) …大「き、なし給はましは」。

- 15ウ 1 はましかは人わらはれにやとおも  
 2 ほしつよりてなんやうくすこし  
 3 つ、さはやい給けるうへのいつしか  
 4 とゆかしけにおほしたる事かき  
 5 りなしかの人しれぬ御心にも  
 6 いみしう心もとなくて人まにま  
 7 いら給てうへのおほつかなかりきこえ  
 8 させ給をまつみたてまつりてそう  
 9 し侍らるときこえ給へとむつかし  
 10 けなる程なれはとてみせた  
 11 てまつ<sup>り給ぬ</sup>ゆもことほりなりさるは

【校異】大成 0247

- 1 人わらはれ (横榊陽池肖三穗吉徹証正紹巴湖) …大「人わらはれ」。  
 1 おもほしつよりて (肖紹) …大「おほしつよりて」。  
 4 おほしたる (吉巴) …大「おほしめしたる」。  
 8 そうし侍らん (横榊陽池肖三穗吉徹証正紹巴湖 (奏し侍らん)) …大「くはしくそうし侍らむ」。  
 10 みせたてまつらぬ (N/A) …大「みせたてまつり給はぬ」。

- 16才 1 いとあさましくめつらかなるまでうつ  
 2 しとり給へるさま、かふへくもあらず  
 3 みやの御心のおに、いとくるしう人の  
 4 見たてまつるもあやしかりつるほと  
 5 のあやまりをまさに人のおもひと  
 6 かめしやさらぬはかなき事をた  
 7 にきずをもとむるよにいかなるな  
 8 のついにもりいつへきにかとおほし  
 9 つゝくるにみのみそいと心うき命  
 10 婦の君にたまさかにあひ給て  
 11 いみしき事ともをつくし給へと

【校異】大成 0247

- 1 あさましく(吉) ∴大「あさましう」。  
 2、かふへくもあらず(横陽肖三徹証正紹巴) ∴大「たかふへくもあらず」。  
 3 くるしう(横榊陽肖紹湖) ∴大「くるしく」。

- 16ウ 1 なにのかひ有へきにもあらずわか  
 2 宮の御事をわりなくおほつかな  
 3 かりきこえ給へはなとかうしもあ  
 4 なかちの給す<sup>は</sup>らんいまをのつから  
 5 みたてまつらせ給ひてんときこえ  
 6 なからおもへるけしきかたみにた、  
 7 ならずかたはらいたきことなれは  
 8 まをにもえのたまはていかならん  
 9 よに人つてならてきこえさせんと  
 10 てない給ふさまぞ心くるしき  
 11 いかさまにむかしむすへるちきりにて

【校異】大成 0247 ~ 0248

8 まをにも(榊) ∴大「まほにも」。

17才1 このよにかゝるなかのへたてそかゝること

2 こそ心えかたけれとの給ふ命婦も

3 宮のおもほしみたれたるさまなど

4 をみたてまつるにえはしたなく

5 もさしはなちきこえず

6 見ても思ふみぬはたいかになけく

7 らんこやよのひとのまとふてふやみ

8 あはれに心ゆるひなき御事ともかなと

9 しのひてきこえけりかくのみいひ

10 やるかたなくてかへり給ふ物から

11 人の物いひもわつらはしきをわり

【校異】大成 0248

3 おもほしみたれたる(横(おもほしみたれたる)陽肖三徹証正紹巴湖)

∴大「おもほしたる」。

4 えはしたなくも(吉)∴大「えはしたなふも」。

11 わつらはしきを(横榊陽池肖三穗吉徹証正紹巴湖)∴大「はつらはし

きを」。

17ウ1 なき事にの給はせお□ほして命

2 婦をもむかしおほえたりしやうにも

3 うちとけむつれ給はず人めたつま

4 しうなたらかにももてなし給ふ物

5 から心つきなしとおほす時もあるへ

6 きをいとわひしう思のほかなる

7 心ちすへし四月にうちへまいり給

8 ほとよりはおほきにおよすけ給ふ

9 てやうくおきかへりなとし給ふ

10 あさましきまてまきれ所なき

11 御かほつきをおほしよらぬ事にし

【校異】大成 0248～0249

2 おほえたりし(N/A)∴大「おほひたり」。

3 むつれ(N/A)∴大「むつひ」。

3 人めたつましう(横榊陽池肖穗)∴大「人めたつましく」。

4 なたらかにも(N/A)∴大「なたらかに」。

6 いと、(N/A)∴大「いと」。

6 わひしう(横池肖)∴大「はひしく」。

6 思のほかなる(横榊陽池肖三穗吉徹証正紹巴湖)∴大「思ひのほかになる」。

18才1 あれはまたならひなきとちはけ

2 にかよひ給へるにこそはとおもほ

3 しけりいみしうおもほしかしつくこと

4 かきりなし源氏の君をかき

5 りなき物におほしめしなから世の

6 人のゆるしきこゆましかりに

7 よりて坊にもえすへたてまつらす

8 なりにしをあかす口おしうた、人

9 にてかたしけなき御有さまかたち<sup>に</sup>

10 ねひもておはするを御らんするま、

11 に心くるしうおほしめすをかう

【校異】大成 0249

7えすへたてまつらす（横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖）…大「すゑた

てまつらす」。

11心くるしう（横陽池肖穂紹）…大「心くるしく」。

18ウ1 やんことなき御はらにおなしひかり

2 にてさしいて給へればきすなき

3 たまとおもほしかしつくに宮は

4 いかなるにつけてもむねのひまなく

5 やすからす物をおもほすれいの

6 中将の君こなたにて御あそひなど

7 し給ふにいたき出たてまつらせ給ふ

8 てみこたちあまたあれとそこをのみ

9 なんかゝるほとよりあけくれみし

10 されは思わたさるゝにやあらんいと

11 よくこそおほえたいとちいさき

【校異】大成 0249

3おもほしかしつくに（横榊陽池肖三吉徹証正湖）…大「おほしかしつ

くに」。

19オ1 程はみなかくのみあるわさにやあらん

2 とていみしうつくしと思きこえ

3 させ給へり中将の君おもての色

4 かはる心ちしておそろしうもかたし

5 けなくもうれしうもあはれにも

6 かた／＼にうつろふ心ちしてなみた

7 おちぬへし物かたりなとしてうち

8 ゑみ給へるかいとゆゝしくうつくし

9 きに我身ながらこれに、たら

10 むはいみしういたはしくおほ

11 え給ふそあなちなるや宮はわり

【校異】大成 0249～0250

2 いみしう（穂紹）…大「いみしく」。

5 うれしうも（池穂）…大「うれしくも」。

6 かた／＼に（N/A）…大「かた／＼」。

8 ゆゝしく（榊吉）…大「ゆゝしう」。

10 いたはしく（吉）…大「いたはしう」。

19ウ1 なくかたはらいたきにあせもなかれ

2 てそおはしける中将はなか／＼な

3 る心ちのかきみたるやうなれはまかて

4 給ぬ我か御かたにふし給てむね

5 のやるかたなきをほとすくして

6 おほい殿へとおほすおまへのせんさ

7 いのなにとなくあをみわたれる

8 中にとこなつの花やかにさき

9 出たるをおらせ給て命婦の君

10 のもにかき給ふことおほかるへし

11 よそへつゝみるに心はなくさまて

【校異】大成 0250

3 かきみたるやうなれは（横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖）…大「みた

るやうなれは」。

5 やるかたなきを（肖三徹（やるかたなきを）<sup>イ無</sup>「朱」証正巴湖）…大「やる方なき」。

20才1 露けさまさるなてしこのはな花

2 にさかなんと思<sup>ひ</sup>給へしもかひな

3 きよに侍ければとありさりぬへ

4 きひまにやありけん御覽せさせ

5 てた、ちりはかりこのはなひらに

6 とまこゆるをわか御心にも物いと

7 あはれにおほし、らる、程にて

8 そてぬる、つゆのゆかりと思

9 にもなをうとまれぬやまとなて

10 しことはかりほのかにかきさしたる

11 やうなるをよろこひなからたてまつれ

【校異】大成 0250

2思ふ給へしも（穂（おもふたまへしも）…大「おもひたまへしも」。

20ウ1 るれいの事なれはしるしあらしか

2 しとくつをれてなかめふし給へる

3 にむねうちさはきていみしう、れ

4 しきにもなみたおちぬつくくどふ

5 したるにもやるかたなき心ちす

6 れはれいのなくさめにはにしのたい

7 にそわたり給しとけなくうちふく

8 たみ給へるひんくきあされたるう

9 ちきすかたにてふえをなつかし

10 うふきすさひつ、のそき給へれ

11 は女君ありつるはなのつゆに

【校異】大成 0250 ~ 0251

3いみしう（池湖）…大「いみしく」。

- 21オ 1 ぬれたる心ちしてそひふし給へる  
 2 さまうつくしくらうたけなりあい  
 3 行こほる、やうにておはしなからと  
 4 くもわたり給はぬなまうらめしか  
 5 りければはいならずそむき給へる  
 6 なるへしはしのかたについでてこちや  
 7 との給へとおとろかすいりぬるいそ  
 8 のとくちすさひてくちおほひし給へ  
 9 るさまいみしくされてうつくし  
 10 あなにくかゝる事くちなれ給にけ  
 11 りな見るめにあくはまさなき事そ

【校異】大成 0251

- 2うつくしく(吉) …大「うつくしう」。  
 3やうにそ(N/A) …大「やうにて」。  
 8くちすさひて(横陽肖三穂吉徹証正紹巴湖) …大「くちすさみて」。  
 9いみしく(吉) …大「いみしう」。

- 21ウ 1 よとて人めして御こと、りよせてひ  
 2 かせたてまつり給さうのことはなかの  
 3 ほそをのたへかたきこそところせか  
 4 れ〇とて平調にをしくたしてしらへ  
 5 給かきあはせはかりひきてさしや  
 6 り給へれはえんしもはてすいとう  
 7 つくしうひき給ちいさき御ほとにさ  
 8 しやりてゆし給御てつきいとうつく  
 9 しければらうたしとおほしてふえふ  
 10 きならしつゝ、をしへたまふいとさと  
 11 くてかたきてうしともをたゝひ

【校異】大成 0251

- 3ところせかれて(N/A) …大「所せけれとて」。  
 6えんしもはてす(N/A) …大「えんしはてす」。《参考》横肖三証正巴湖「えんしもはてす」、徹「えんむしもイ無「朱」はてす」、紹「ええんしもはてす」、陽「えんしもはてす」。

22オ1 とわたりにならひとり給おほかたらうく

2 しょうをかしき御心はへを思ひしこと

3 かなうとおほすほそろくせりといふ物

4 はなはにくけれとおもしろくふきすま

5 し給へるにかきあはせまたわか

6 れとひやうしたかはす上すめき

7 たりおほとなあふらまいりてゑと

8 もなと御らんするにいて給へしと

9 ありつればひとくこはつくりきこえて

10 あめふりぬへしなといふにひめ君

11 れいの心ほそくてくし給へりふみ

【校異】大成 0251 ~ 0252

4 おもしろく(横陽肖吉紹) : 大「おもしろふ」。

4 ふきすまし(横陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) : 大「ふきすさひ」。《参

考》横「ふきすまし」。

6 ひやうし(横陽) : 大「はうし」。《参考》肖三吉徹証正紹巴「拍子」。

7 おほとなあふら(三証正巴) : 大「おほとなあふら」。

10 ふりぬへし(穂) : 大「ふり侍ぬへし」。

11 くし給へる(N/A) : 大「くし給へり」。

22ウ1 さしてもあましうつふしておはすれ

2 はいとらうたくて御くしのいとめて

3 たくこほれかゝりたるをかきなて

4 てほかなる程はこひしくやあると

5 の給へはうなつき給ふわれもひとひ

6 も見たてまつらぬはいとくるしうこそ

7 されとおさなくおはするほとは心やす

8 く思ひきこえて先くねくしう

9 うらむる人のこゝろやふらしと思てむ

10 つかしければはしかくもありくそ

11 おとなしくみなしてはほかへもさらに

【校異】大成 0252

1 うちさし(N/A) : 大ナシ。

7 されと(横横陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) : 大「あれと」。

8 くねくしう(横陽池肖) : 大「くねくしう」。

9 むつかしければ(横横陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) : 大「むつはしければ」。

23才1 いくまし人のうらみおはしなと思ふ

2 も世になかうありておもふさ

3 まにみたてまつらんとおもふそな

4 とこま／＼とかたらひきこえ給へ

5 はさすかにはつかしくて

6 もかくもいらへきこえ給はずや

7 かねて御ひさによりかゝりてね

8 いら給ぬれはいと心くるしう

9 てこよひはいてすなりぬとの

10 給へはみなたちておもものなとこ

11 なたにまいらせたりひめ君

【校異】 大成 0252

3 みたてまつらん (N/A) : 大「みえたてまつらん」。

5 はつかしくて (三徹証正紹巴湖) : 大「はつかしうて」。

23ウ1 おこしたてまつり給ていてす

2 なりぬときこえ給へはなくさ

3 みておき給へりもろともに物

4 などまい<sup>る</sup>いとほかなけにすさ

5 ひてさらはねたまひねかして

6 あやうけに思給ふれはかゝる

7 を見すて、はいみしきみちなりと

8 もをもむきかたくおほえ給ふか

9 うやうにと、められ給ふおり／＼

10 などもおほかるを、のつからもり

11 きく人おほい殿にきこえければ

【校異】 大成 0252 ~ 0253

4 まいり (N/A) : 大「まいる」。

6 思給ふれは (N/A) : 大「思給つれは」。《参考》榊穂「おもひ給へれ

は「横陽肖正紹」思たまへれは「池三吉徹証巴湖」おもう給へれは」。

8 かうやうに (横榊陽肖三吉徹証正紹巴湖) : 大「かやうに」。

24オ1 たれならん<sup>ナ</sup>いとめさましきこと

2 にもあるかないまゝてその人と

3 もきこえすさやうにまつはし

4 たはふれなとすらむはあてやか

5 にこゝろにくき人にはあらしう

6 ちわたりなどにてはかなく見た

7 まひけん人を物めかし給て人

8 やとかめんと<sup>ナ</sup>すかくし給ふなゝり

9 こゝろなけにいはけ<sup>ナ</sup>○<sup>ナ</sup>本<sup>ナ</sup>もきこ

10 ゆるなとさふらう人<sup>ナ</sup>くもき

【校異】大成 0253

1 たれならんと (Z/A) ∴ 大「たれならむ」。

8 とかめんとて (Z/A) ∴ 大「とかめむと」。

9 いはけなく (池) (いはけ<sup>ナ</sup>○<sup>ナ</sup>て) 肖三徹証正紹 ∴ 大「いわけて」。

9 きこゆる (Z/A) ∴ 大「きこゆるは」

24ウ1 こえあへりうちにもかゝる人ありと

2 きこしめしていとおしくおと、の

3 思ひなけかるなることもけに物

4 けなかりしほとをおほなく

5 かくものしたる心をさばかりの

6 ことたとらぬほとにはあらしを

7 などかなさけなくはもてなす

8 覧との給はすれとかしこま

9 りたるさまにて御いらへもき

10 こえ給はねは心ゆかぬなめりとい

【校異】大成 0253

3 こともけにくもてなす覧と ∴ 大「など」。他本校異は以下に示す。

5 ものしたる心を (榊陽肖三穂吉徹証正紹巴湖) ∴ 《参考》横(物したる<sup>ナ</sup>布を)、池「物したるを」。

6 たとらぬ (横榊陽池肖三穂吉徹(た○らぬ)証紹巴湖) ∴ 《参考》正「たらぬ」。

7 もてなす覧と (湖) ∴ 《参考》横陽肖三証正紹巴「もてなすなるらんと」、榊池穂吉「もてなすなるなと」、徹「もてなすならむと」。

10 いとおしう (池) ∴ 大「いとおしく」。

25オ 1 とおしうおほしめすざるはずき

2 すきしくうちみたれてこの見

3 ゆる女房にまれ又こなたかなた

4 のひとくとなへてならず〇とも

5 みえきこえさめるをいかなる物の

6 くまにかくれありきてかく人

7 にもうらみらるらんとの給はず

8 みかとの御としねひさせ給ひ

9 ぬれとかうやうのかたはえずくさ

10 せ給はすうねめゆくら人などをも

11 かたち心あるをはことにもてはやし

【校異】大成 0253

1 すきすきしく(池穂吉) …大「すきくしう」。

4 とも(池紹) …大「なとも」。

9 かたは(肖三徹(かたは「朱」)証正紹巴湖) …大「かた」。

10 うねめのくら人(N/A) …大「うねへ女くら人」。《参考》徹巴「うねめくら人」。

25ウ 1 おほしめしたればよしある宮つ

2 かへ人おほかるころなりはかなき

3 事をもいひふれ給にはもては

4 なる、事もありかたきにめなる、

5 にやあらんけにそあやしうすい給

6 はさめるとこ、ろみにたはふれこと

7 をきこえか、り〇するおりあれとな

8 さけなからぬほとにうちいらへてまこ

9 とにはみたれ給はぬをまめやかに

10 さうくしと思きこゆる人もあり

11 といたくおひたるないしのすけ

【校異】大成 0253 ~ 0254

7 きこえか、りする(N/A) …大「きこえか、りなとする」。

11 いたく(N/A) …大「いたう」。

26才1 人もやむことなくこゝろはせありて

2 あてにおほえたかくはありなからい

3 みしうあたまきたる心さまにてぞ

4 なたにはをもからぬあるをかく

5 さたすくるまでなとさしもみたる

6 覧といふかしくおほえ給ければ

7 たはふれこといひふれて心見給

8 に、けなくもおもはさりけ<sup>ゆ</sup>あ

9 さましとおほしなからさすかに

10 かゝるもをかしくて物などの給

11 てけれと人のもりきかんもふる

【校異】大成 0254

1こゝろはせありて(陽池(心はせあり○))肖三吉徹証正紹巴湖(…大

「心はせあり」。

3あたまきたる(N/A)…大「あたまいたる」。

4かく(N/A)…大「かう」。

8おもはさりけり(徹湖)…大「思はさりける」。

10をかしくて(吉)…大「おかしふて」。

26ウ1 めかしき程なれはつれなくもてなし

2 給へるを女はいとつらしとおもへり

3 うへの御けつりくしにさふらひけるを

4 はてにければうへはみうちきの

5 人めして出させ給ぬるほとに

6 又人もなくてこのないしつねよ

7 りもきよけにやうたいかしら

8 つきなまめきてさうそくありさ

9 まもいとほなやかにこのましけに

10 見ゆるをさもふりかたくもと心つ

11 きなく見給物からいかにおもふらんと

【校異】大成 0254

8ありさまも(N/A)…大「ありさま」。

10ふりかたくもと(穂)…大「ふりかたうもと」。

11いかに(N/A)…大「いか」。

- 27オ 1 さすかにすくしかたくてものすそを  
 2 ひきおとろかし給へれはかはほりの  
 3 えならすゑかきたるをさしかくして  
 4 見かへりたるまみいたく見のへ  
 5 たれとまかはいたくくろみおち  
 6 いらていみしうはつれそ、けたり  
 7 につかはしからぬあふきのさまかな  
 8 と見給ふてわかもたまへるにさし  
 9 かへてみ給へはあかきかみのうつる  
 10 はかり色ふかきにこたかきも  
 11 りのかたをぬりかくしたりかたつ

【校異】大成 0254 ~ 0255

- 4 いたく(陽肖) : 大「いたう」。  
 5 まかはいたく(肖三徹証正紹巴) : 大「まかはらいたく」。

- 27ウ 1 かたにてはいとさたすきたれとよし  
 2 なからすもりのしたくさおひぬれ  
 3 はとかきすすひたるをことしも  
 4 あれうたての心はへやとえまれ  
 5 なからもりこそなつのとみゆるゆ  
 6 ちとてなにくれとの給もにけな  
 7 く人や見つけんとくるしきを女は  
 8 さもおもひたらず  
 9 君しこはたなれのコまにかりかはん  
 10 さかりすきたるした葉なりとも  
 11 といふさまこよなくいろめき

【校異】大成 0255

- 2 おひぬれはと(横陽肖三徹証正紹巴) : 大「おひぬれはなと」。  
 5 みゆるめる(ZA) : 大「みゆるる」。《参考》三巴「みゆる」。

28オ 1 たり

- 2 さ、わけは人やとかめんいつとなく
- 3 こまなつくめるもりの木かくれわ
- 4 つらはしさにとてたち給ふをひ
- 5 かへてまたかゝる物をこそ思
- 6 侍らねいまさらなる身のはちに
- 7 なんとてなくさまいといみし今
- 8 きこえむ思ながらそやとてひ
- 9 きはなちていて給ふをせめ
- 10 てをよひてはしくらとうら
- 11 みかくるをうへはみうちきは

【校異】

なし

28ウ 1 て、みさうしよりのそかせ給けり

- 2 につかはしからぬあはひかなとい
- 3 とをかしうおほされてすき心
- 4 なしとつねにもてなやむめるを
- 5 さはいへとすくさゝりけるはと
- 6 てわらはせ給へは内侍はなまゝ
- 7 はゆけれとにくからぬ人ゆへ
- 8 はぬれきぬをたにきかま
- 9 ほしかるたくひもあむなれはに
- 10 やいたうもあらかひきこえさせす
- 11 ひとくもおもひのほかなること

【校異】大成 0255 ~ 0256

8きかまほしかる (N/A) ∴ 大「きまほしかる」。

- 29才 1 かなとあつかふめるを頭中将き、  
 2 つけていたらぬくまなきこ、  
 3 ろにてまた思よらさりけるよ  
 4 と思につきせぬこのみ心も  
 5 見まほしうなりにければかたら  
 6 ひつきにけりこの君も人よ  
 7 りはことなるをかのつれなき  
 8 人の御なくさめにとおもひ<sup>へ</sup>われと  
 9 見まほしきはかきりありける  
 10 をとやうたてのこのみやいたう  
 11 しのふれは源氏の君はえ

【校異】 大成 0256

7ことなる（肖三徹証正紹巴）…大「いとことなる」。

- 29ウ 1 しり給はず見つけきこえては  
 2 まつうらみきこゆるをよはひの  
 3 ほどいとおしければなくさめん  
 4 とおほせとかなはぬ物うさにいと  
 5 ひさしうなりにけるをゆふたち  
 6 してなこりす、しきよひの  
 7 まきれにうんめい殿のわたりを  
 8 た、すみありき給へはこの内侍  
 9 ひはをいとをかしうひきゐた  
 10 り御前などにもおとこかた  
 11 の御あそひにましりなとして

【校異】 大成 0256

5ひさしう（池三吉（ひさし<sup>く</sup>）徹証正湖）…大「ひさしく」。

30オ 1 ことにまさる人なき上すなれば

2 もの、うらめしうおほえけるおり

3 からいとあはれにきこゆうりつく

4 りになりやしなましとこゑはいと

5 をかしくてうたふぞすこし心

6 つきなきかくしうにありけん

7 むかしの人もかくやをかしかりけ

8 んとみ、とまりてき、給たまひき

9 やみていといたう思みたれたる

10 けはひなりきみあつま屋をし

11 のひやかにうたひてよりたまへる

【校異】大成 0236 ~ 0237

2もの、うらめしう（池肖三徹証正紹巴湖）…大「ものうらめしう」。

5をかしくて（吉）…大「おかしうて」。

30ウ 1 にをしひらひてきませとうち

2 そへたるもれいにたかひたる心

3 ちぞする

4 たちぬる、人しもあらしあつま屋

5 にうたてもかゝるあまそ、きかな

6 とうちなけくをわれひとりしも

7 き、おふましけれとうとましや

8 なに事をかくまてはとおほゆ

9 人つまはあなわつらはしあつま屋の

10 まやのあまりもなれしとそおもふ

11 とてうちすきなまほしけれとあま

【校異】

なし

- 31オ 1 りはしたなくやおもひかへして  
 2 人にしたかへはすこしはやりかな  
 3 るたはふれことなといひかはして  
 4 これもめつらしきこ、地そし給ふ  
 5 頭中将はこの君のいたうまめ  
 6 たちすくしてつねにもとき給ふ  
 7 かねたきをつれなくてうちく  
 8 にしのひ給ふかたくおほかめるをい  
 9 かて見あらはさんとのみ思わたるに  
 10 これを見つけたる心ちいとう  
 11 れし<sup>し</sup>かゝるおりにすこしをとし

【校異】大成 0257

- 7うちく(首紹巴湖)：大「うちく」。  
 10うれしう(N/A)：大「うれし」。

- 31ウ 1 きこえず御心まとはしてこりぬやと  
 2 いはんと思てたゆめきこゆ風の  
 3 ひや、かにうちふきてや、ふけゆ  
 4 くほとにすこしまとろむにやと  
 5 みゆるけしきなれはやをらいくる  
 6 に君はとけてしもねられ給  
 7 はぬこ<sup>こ</sup>ろなれはふとき、つけて  
 8 この中将とはおもひよらすなをわれ<sup>す</sup>  
 9 すかたくすなるすりのかみにこそ  
 10 あらめとおほすにおとなくしき人に  
 11 かくにけなきふるまひをして見つ

【校異】大成 0257 ~ 0258

- 2風のひや、かに(N/A)：大「風ひや、かに」。  
 6ねられ給はぬ(首三徹証正紹巴)：大「ね給はぬ」。  
 7ころ(N/A)：大「心」。  
 8われ<sup>す</sup>かたく：大「わすれかたく」。傍記は本文同筆か。

32オ 1 けられんことはつかしけれ

2 はあなわつらはしいてなんよくも

3 のふるまひはしるかりつらん物を

4 こ、ろうくすかし給<sup>ひ</sup>けるよとて

5 なをしはかりをとりて屏風の

6 うしろにいり給ぬ中將をかし

7 きをねんしてひきたて給へ

8 る屏風のもとによりてこほ

9 こほとた、みよせておとろくし

10 うさはかすに内侍はねひたれと

11 いたうよしはみなよひたる人

【校異】大成 0258

4 給ふけるよ (N/A) …大「給けるよ」。

7 ひきたて給へる (榊池三穂吉徹証正紹巴湖) …大「ひきたてまつる」。

9 おとろくしう (横陽池肖湖) …大「おとろくしく」。

11 いたう (N/A) …大「いたく」。

32ウ 1 のさきくもかやうにてこ、ろう

2 こかすおりくありければならひて

3 いみしう心あはた、しきにもこの

4 君をいかにしなしきこえぬる

5 にかとわひしさにふるうくつ

6 とひかへたりたれとしられて<sup>レ</sup>

7 <sup>冊</sup>すなはやとおほせとしとけな

8 きすかたにてかうふりなとうち

9 ゆかめてはしらんうしろておもふ

10 にいとをこなるへしとおほしや

11 すらふ中將いかてかわれとしられ

【校異】大成 0258

3 いみしう (N/A) …大「いみしく」。

4 しなしきこえぬるにかと (肖徹証正巴湖) …大「しきこえぬるか」と。

《参考》紹「しなしきこえぬるにもと」。

- 33才 1 きこえしと思て物もいはすたゝいみ  
 2 しういかれるけしきにもてなして  
 3 たちをひきぬけはをんなあかき  
 4 みあか君とむかひてゝをするに  
 5 ほとくわゆらひぬへしこのましよう  
 6 わかやきてもてなしたるうはへこ  
 7 そさてもありけれ五十七八の人の  
 8 うちとけて物おもひさはけるけはひ  
 9 えならぬ甘のわか人たちの御中に  
 10 て物をちしたるいとつきなし  
 11 かくあらぬさまにもてひかめて

【校異】大成 0258 ~ 0259

5 わつらひぬ (N/A) …大「わらひぬ」。

7 さても (横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) …大「さりも」。

8 物おもひさはける (横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴) …大「ものいひさはける」。

11 かくあらぬさま (N/A) …大「かふあらぬさま」。

- 33ウ 1 おそろしけなる気しき○みすれ  
 2 となかくしるく見つけ給て  
 3 われとしりてことさらにするな  
 4 りけりとおこになりぬその人な  
 5 ゆりと見給にいとをかしければ  
 6 たちぬきたるかひなをとらへて  
 7 いたいたうつみ給へればねたき  
 8 物からえたへてわらひぬまことは  
 9 うつし心かとよたはふれにくしや  
 10 いてこのなをしきんと給へと  
 11 つとゝらへてさらにゆるしきこえす

【校異】大成 0259

1 気しき (N/A) …大「けしきを」。

34才1 さらはもろともにこそとて中将の

2 おひをひきときてぬかせ給へはぬ

3 かしとすまふをとかくひきしろふ

4 ほとにほころひはほろくくとたえぬ

5 中将

6 つゝむめるなやもり出んひきかは

7 しかくほころふる中のころもにうへに

8 とりきはしるからんといふ君

9 かくれなき物としるくくなつこ

10 ろもきたるをうすき心とそみるとい

11 ひかはしてうらやみなきしとけなき

【校異】大成 0259

11しとけなきすかたに(肖三徹証正紹湖)∴大「しとけなきかたに」。

34ウ1 すかたに引なされてみないて給ぬ君

2 いとくちおしうみつけれぬること、

3 思ふし給へり内侍はあさましうおほえ

4 ければおちとまれる御さしぬきおひな

5 とつとめてたてまつれり

6 うらみてもいふかひそなきたちかき

7 ねひきてかへりしなみのなこりにそ

8 こもあらはにとありおもなのさまやと

9 み給ふもにくけれとわりなしとおもへり

10 しもさすかにて

11 あらたちしなみに心はさはかねとよ

【校異】大成 0259 ~ 0260

1君(ㄨ>ㄨ)∴大「君は」。

2くちおしう(池穗)∴大「くちおしく」。

3あさましう(横陽肖湖)∴大「あさましく」。

- 35オ 1 せけんいそをいか、うらみぬとのみなん有  
 2 けるおひは中将のなりけりわか御な  
 3 をしよりは色ふかしとみ給ふにかたそ  
 4 てもなかりけりあやしの事ともやお  
 5 りたちみたる、人はむへおこかましき  
 6 こともおほからんといと、御心おさめられ  
 7 給ふ中将殿みところより○まつとち  
 8 つけさせ給へとてをしつ○みてをこせ  
 9 たるをいかでとりつらんと心やましこ  
 10 のおひをえさりましたかはおほすその  
 11 色のかみにつゝみて

【校異】大成 0260

- 3 かたそで (N/A) …大「はた袖」。  
 4 おりたち (N/A) …大「おりたちて」。  
 5 おこかましきことも (横柳陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) …大「おこか  
 ましき事は」。  
 7 まつ (N/A) …大「これまつ」。  
 8 をしつみて (N/A) …大「おしつゝみて」。

- 35ウ 1 中たえはかことやおふとあやうさ  
 2 にはなたのおひをとりてたにみす  
 3 とてやり給ふたちかへり  
 4 君にかくひきとられぬるおひなれは  
 5 かくてたえぬる中とかこたんえのかれ  
 6 させ給はしとあり日たけてをのく  
 7 殿上にまいり給へりいとしつやかに物と  
 8 をきさましておはするに頭の君も  
 9 をかしけれとおほやけことおほくそうし  
 10 くだす日にていとるはしくすくよか  
 11 なるをみるもかたみにほゝえまる人ま

【校異】大成 0260 ~ 0261

- 7 しつやかに (N/A) …大「しつかに」。  
 9 をかしけれと (N/A) …大「いとおかしけれと」。

36オ1 にさしよりて物かくしはこり○ぬらんかしたまひ

2 とていとねたけなるしりめなりなとて

3 かさしもあらんたちなからかへりけん人こそ

4 いとおしけれまことはまじや世中よと

5 いひあはせ給てとこの山なるとかたみに

6 くちかたむさてその、ちはともすれば

7 ことのついでことにいひむかふるくさは

8 いなるをいと、ものむつかしき人ゆへとお

9 ほし、らるへし女はなをいとえんにう

10 らみかくるをわひしと思ありき給中将

11 はいもうとの君にもきこえいてすた、

【校異】大成 0261

4よしや (N/A) …大「うしや」。

5いひあはせ給て (N/A) …大「いひあはせて」。

6その、ちは (横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) …大「その、ち」。

8おほし、らるへし (池肖三徹証正紹巴湖) …大「おほししるへし」。

36ウ1 さるへきおりのをとしくさにせんとぞ思

2 けるやんことなき御はらくのみこたちたに

3 うへの御もてなしのこよなきにわつらはし

4 かりていとことにさりきこえ給へるをこの

5 中将はさらにをかけたれきこえしとは

6 かなきことにつけてもおもひいとみきこ

7 え給ふこの君ひとりそひめ君のひとつ

8 はらなりける御かとの御こといふはかりに

9 こそあれ我もおなし大臣ときこゆ

10 れと御おほえことなるかみこはらにて

11 又なくかしつかれたるはなにはかりおとる

【校異】大成 0261

7ひとつ (N/A) …大「御ひとつ」。

8いふはかりにこそ (横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) …大「いふはかりこそ」。

37才1 へき、はとおほえ給<sup>は</sup>ぬなるへし人からもある

- 2 へきかきりと、のひてなに事もあらま
- 3 ほしくたらひてそ物し給けるこの御中
- 4 とものいとみこそあやしかりしかされと
- 5 うるさくてなん七月にそきさきぬ給ふ
- 6 めりし源氏の君宰相になり給ぬみ
- 7 かとおりるさせ給はんの御心つかひちかく
- 8 なりてこのわか宮を坊にと思きこえ
- 9 させ給ふに御うしろみし給へき人おは
- 10 せず御は、かたみなみこたちにて源氏
- 11 のおほやけことしり給ふすちならねは

【校異】大成 0261 ~ 0262

1 給ぬ (Z/A) : 大「たまはぬ」。

7 ちかく (陽肖穂) : 大「ちかふ」。

10 御は、かた (横榊陽池肖三穂吉徹証正紹巴湖) : 大「御は、かたの」。

37ウ1 は、宮をたにうこきなきさまにし

- 2 をきたてまつりてつよりにとおほすに
- 3 なんありけるこき殿いと、御心うこき
- 4 給ことわりなりされと東宮の御よい
- 5 とちかくなりぬれはうたかひなき御くら
- 6 ゐなりおもほしのとめよとそきこえさ
- 7 せ給けるけに春宮の御は、にて甘よ
- 8 ねんになり給へる女御を、きたて
- 9 まつりてはひきこしたてまつり給<sup>ひ</sup>ふかた
- 10 きことなりかしのれいのやすからす
- 11 よ<sup>よ</sup>人もきこえけりまいり給ふよの御とも

【校異】大成 0262

3 こき殿 (陽) : 大「こうきてむ」。《参考》肖穂徹正紹巴「弘徹殿」湖「こきてん」。

4 いとちかく (横陽肖穂巴湖) : 大「いとちかふ」。

38才1 に宰相の君もつかふまつり給ふおなしき

2 さきときこゆる中にもきさいはらのみ

3 こたまのひかりか、やきてたくひなき

4 御おほえにさへ物し給へは人もいとことに

5 思かしつき、こえたりましてわりなき御

6 心には御こしのうちも思やられていと、を

7 よひなき心ちし給ふにす、ろはしき

8 まてなん

9 つきもせぬ心のやみにくる、かな

10 くもるに人を見るにつけてもとのみひ

11 とりこたれつ、物いとあはれなりみこは

【校異】大成 0262 ~ 0263

1きさきと(榊池肖三穂吉徹証正紹(きさいと)巴(后と)湖)∴大「宮と」。

3たまのひかり(肖三徹証正紹巴湖)∴大「たまひかり」。

38ウ1 およすけ給ふ月日にしたかひていとみ

2 たてまつりわきかたけなるを宮いとく

3 るしとおほせとおもひよる人なきなめ

4 りかしけにかさまにつくりかへて

5 かはをとらぬ御有さまは世にいても

6 のし給はまし月日のひかりのそらに

7 かよひたるやうにそよの人もおもへる

【校異】大成 0263

7よの人もおもへる(肖三穂徹証正紹湖)∴大「世人もおもへる」。